

生涯学習のあり方について

1. 今後の生涯学習のあり方について

- ・【資料集 10 ページ】第 8 期答申（H31.2）で示した生涯学習のビジョン

次世代を担う若者から、知識・経験を継承する立場の高齢者まで、あらゆる年代の市民を、市の生涯学習推進に巻き込んでいく仕組みを構築する。そして、その中での活動が、教育の範疇にとどまらず、地域活動や福祉、防災等他の分野と連携することで、各々が専門性を活かしながら、新しい取組が生まれるのではないか。つまり、生涯学習に関する施設・仕組み・組織・事業等を総合化していくことで、世代を超えた地域交流の促進や、市民によるまちの活性化につながるような生涯学習が推進できるものとなる。

- ・【資料集 11 ページ】

《これまでの公民館の枠組みにとらわれず、他の公共施設等と柔軟に連携することで生涯学習を推進する》

- ・【資料集 22 ページ】

市教委が考える生涯学習のビジョンと公民館の今後のあり方

…既存の公民館の枠組みにとらわれことなく、幅広い視点で生涯学習の推進を促していく場となる。

- 【資料集 36, 37 ページ】

公共施設の多目的・多用途化イメージ

公共施設の将来像…子どもから高齢者までの幅広い世代が集い、学びを行う場

- ・ワークショップで浮かび上がったキーワード

多世代交流+集いやすさ

+

学び

<参考>中宇治地域市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップについて

(1) 10月21日 ワークショップ第2回 「場所」について考える

別紙資料参照

レクチャープレゼンター：藤村 龍至さん

ワークショップ：拠点にふさわしい立地と空間はどのようなものか

候補地（宇治公民館跡地と菟道ふれあいセンター）のメリット・デメリット

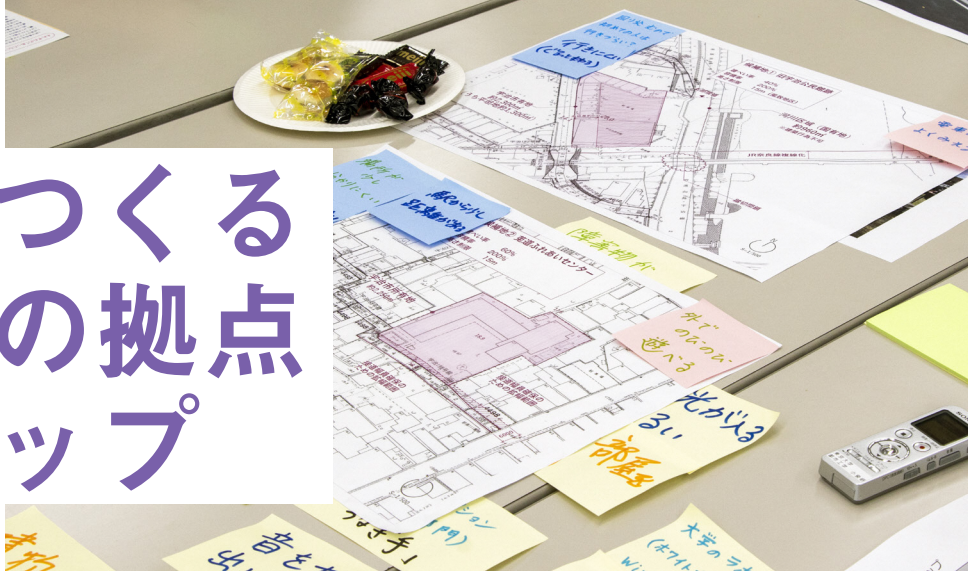
(2) 11月18日 ワークショップ第3回 「しくみ」について考える

別紙資料参照

レクチャープレゼンター：末永 三樹さん

ワークショップ：1回目、2回目で出された意見をベースに、活動拠点の運営を考える。
活発な交流が生まれる持続可能な拠点はどのような主体に運営されると良いか。

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ



vol.2 「場所」について考える

10月21日

ゆめりあうじ

中宇治地域の新たな市民活動の拠点づくりを、市民協働で進めるためのワークショップの第2回目を行いました。今回のテーマは「場所について考える」です。建築家として公共施設の設計業務を行いながら、その管理運営にも携わる藤村龍至さんから、新しい公共施設をつくり運営していく際の考え方を紹介していただきました。その後、第1回のワークショップで考えた「あってほしい活動」を踏まえながら場所について意見を交わしました。

地域の課題を解決する

藤村さんが地域で活動する際には、①みんなでつくる、②公共施設を運営する、③地域の課題を解決する、という3ステップを意識されているといいます。

「みんなでつくる」の段階については、少子化に直面する埼玉県鶴ヶ島市の公共施設を再編するプロジェクトを例としてお話されました。地域の様々な人と話す中で、当初の話し合いでは見つけられなかった

キッチンのニーズを引き出し、それを踏まえて会議場とキッチンを中心に設計した結果、コミュニティキッチンとして地域の方の居場所をつくることができたといいます。様々な立場の住民の要求を汲み取り、それらが矛盾しないように条件を付けながら形にしていってプロセスが重要だということでした。



「公共施設を運営する」の段階については、同県鳩山ニュータウンで、公民館とコミュニティカフェを組み合わせた新たな公共施設の運営に携わった事例を挙げられました。当初は利用率が低かったものの、公民館とカフェの機能を組み合わせた利用方法を提示するなどの取り組みを続けた結果、ニュータウンの中心で人が集まる施設になったそうです。現場で少しずつ試しながら運営していくことが成功の鍵だと話されました。また、地域の活動団体の仕組みを理解した上で、それぞれの中間的な位置で新たな運営方法を構想することが大切だというお話をいただきました。

上記のような取り組みの結果として「地域の課題を解決する」ことができるということで、多様な地域住民・団体の意見を合わせて場所を作っていく方法について大変参考になるお話となりました。

立地と空間を考える

今回は、各世代を織り交ぜたグループでワークショップを行いました。まず、拠点にふさわしい立地と空間とはどのようなものか、前回の「あったらいい活動」も参考にしながらアイデアを出しました。そのあとに、実際の候補地である宇治公民館跡地と菟道ふれあいセンターについて、それぞれの場所のメリットとデメリットを出し合いました。そして、最初に出した立地と空間の要素と比較しながら、各候補地の理想の姿についてまとめ、全体に向けて発表しました。

立地についてはアクセス面での意見が共通していた一方で、空間についてはバリアフリー、自習スペース、子供の遊び場など、参加者それぞれの立場から想像した多様なアイデアが出されました。



2023年10月21日(土)
13時30分～16時30分
会場:ゆめりあうじ
参加者:26名
ファシリテーター:6名
(レクチャー)
藤村龍至(建築家/東京藝術大学准教授)

それぞれの「場所」

宇治公民館跡地については、宇治川に近く自然とふれあうことができるといった意見や、鉄道に近いため大きな音を出しても迷惑にならず、活動の自由度が高いという意見が多く出されました。一方で、現在の道路の構造上遠回りしなければならないということや、住宅街から離れているため気軽に立ち寄りづらいといったアクセス面でのデメリットが挙げられました。それを受けて、屋外でのレジャーや、音を出す活動ができる場所となってほしいという提案が多くみられました。

菟道ふれあいセンターについては、平地の住宅街の中心にあり商店街も近いという立地特性から、地域の人々が集まる場となりやすいという意見が多くありました。一方で、駅からのアクセスはそこまで良くない、住宅街の中だからこそ騒音への注意が必要であるといった声もありました。提案としては、多世代が様々な目的で気軽に立ち寄ることができるような場所というものが多かったです。

いずれの場所についても実際の活動が鮮やかにイメージできるような発表ばかりでした。参加者も、ほかの班の発表に聞き入り、時には大きくなずいたり微笑んだりしながら聞く姿が見られました。



ワークショップを終えて、藤村さんから、「想像が主体的かつ具体的で、市民協働の可能性を感じるワークショップであった」との感想をいただきました。

今回は初めての多世代のグループワークということで、異なる世代の方と意見を交わすことを楽しむ姿が見られました。「いろいろな年代の人がいて話が広がって楽しかった」「自分では発想できないアイデアを学生から聞くことができ、考え方の違いをいい意味で感じた」といった感想をもった参加者もいました。市民協働の際にとっても重要な、様々な人の想いを知る機会になったことと思います。次回はいよいよ最終回、「しくみについて考える」です。

今後のワークショップ予定

11.18 13:30~16:30

#3 「しくみ」について考える

会場：ゆめりあうじ

市民協働でつくるまちづくりの拠点

ワークショップ | 中宇治地域

主催：宇治市市民協働推進課

発行日 2023.11.02

	拠点に ふさわしい立地	拠点に ふさわしい空間	宇治公民館跡地	菟道ふれあい センター
1班	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停や駅と近く 駐車も可能 ・緑が多い ・ほかの施設と近い 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事ができる ・防音機能がある ・作業スペースがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○景色がよい △アクセスが悪い <p>景観の良さを活かし、 観光客も使える場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や住宅街に近い △道が狭い <p>子どもたちの 遊び・学びの場所</p>
2班	<ul style="list-style-type: none"> ・平坦で歩いて 行きやすい ・ついでに立寄りやすい ・駐車場、駐輪場がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタルスペース ・バリアフリー、子育て 設備がある ・広々としたスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きい音が出せる △アクセスが悪い <p>特定の目的で使える 広く開かれた場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に行ける △場所がわかりづらい <p>誰でも気軽に 使える場所</p>
3班	<ul style="list-style-type: none"> ・外から中が見える ・まちの中心地にある ・駐車場がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を預けられる ・屋外でも活動できる ・パウダールームがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅街と離れている △電車の騒音 <p>多くの人が集まる レジャー施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅街で人が来やすい △道が狭い <p>多世代が集う 多機能複合施設</p>
4班	<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節点にある ・風光明媚である ・音を出しても 迷惑でない 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー、子育て 向け設備がある ・読書や勉強ができる ・オフィスやラボの ように使える 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅や「茶づな」と近い △アクセスに まわり道が必要 <p>地域内外の人が集い 交流する場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○近くにお店が多い △道が狭く、 場所がわかりづらい <p>多世代の地域住民が居 心地よくすごせる場所</p>
5班	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの用事と 合わせて使える ・安全で子供も一人で いける ・アクセスが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱いで過ごせる ・開放的でつるげる ・屋外で遊べる 	<ul style="list-style-type: none"> ○川や鉄道の 眺めがよい △夜は暗い <p>景色や自然を 活かした場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○商店街も 観光地も近い △路地で迷いやすい <p>地域の人も観光客も 立ち寄れる場所</p>
6班	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量が多くなく安全 ・歩いていきやすい ・景色が美しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源、wifiが整備 ・ミーティングや 自習ができる ・夜も使える ・部屋を自由に区切る ことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○川が近く広い △周りとの高低差 <p>川を活かした アウトドアなどの活動 ができる場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○まちなかにある △道が複雑で 行きにくい <p>まちのセンターで 多世代、観光客を つなぐ場所</p>

